

シラス漁へのフグ稚魚混入防止対策研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成 27～29 年度)

担当：水産技術研究所資源海洋科 鷲山裕史

【研究の背景とねらい】

平成 26 年に、シラス加工品にフグの稚魚が混入する事例が全国の多くの地域で発生し、全国有数のシラス産地である本県漁業者、加工業者に大きな影響を与えました。サイズが数ミリ程度のフグ稚魚は、外見からの種査定は困難であることや、フグ稚魚の多くは有用種ではないため、分布や生態に関する知見は少なく、混入防止の対策は受身にならざるを得ません。

本研究では、フグ稚魚の種類や混入時期、場所、毒性等を調査することで、発生時期や生息場所等の生態を明らかにします。これにより、操業場所の変更や、加工の際に異物除去の重点時期を設定する等の積極的な対策が可能となり、フグ稚魚混入のリスクが軽減します。

【これまでに得られた成果】

- 平成 27 年に混入したフグ稚魚は、全長 8～187mm のサバフグ類で、10～60mm の比率が高く、30mm 以下の小型サイズは 5 月中旬から 11 月中旬に混入しました。このうち、混入数が増加する 9 月～10 月に注意が必要と考えられました。
- 西日本では、シロサバフグの産卵期は 5 月～8 月で、仔稚魚は夏期に外洋で表層浮遊生活をした後内湾に来遊します。本県沿岸では 9 月～10 月に全長 10～60mm が混入しているため、西日本と産卵期や成長が異なると考えられました。
- シラスに混入するフグ類以外の稚魚は、サバ類は 5 月～7 月、タチウオは 6 月～9 月、ヒイラギは 5 月～6 月、イソギンポ科は 10 月～11 月、エソ科は 5 月～12 月でした。

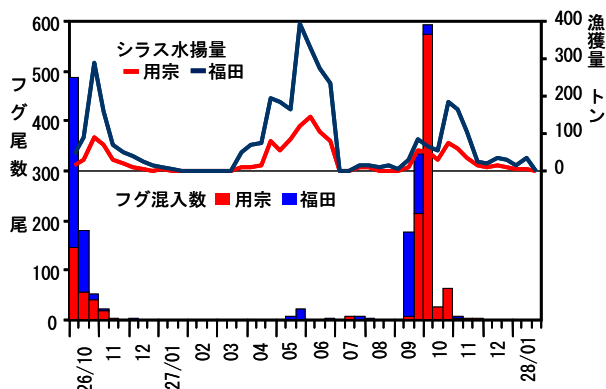


図 1 用宗、福田地区のフグ混入数とシラス水揚量の推移

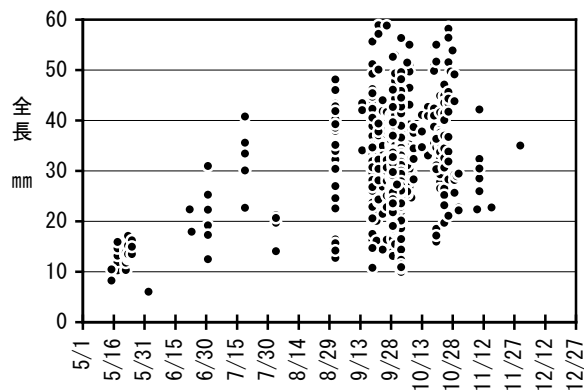


図 2 混入したサバフグの全長の推移

【期待される効果】

- フグ稚魚の少ない場所や時期で操業することで、漁獲物への混入が減少します。
- シラス加工の際には、フグ稚魚の混入時期に合わせたチェック体制をとることで、フグ稚魚の除去にかかるコストが削減されます。
- 異物混入防止の取り組みを情報発信することで、消費者へ安全性のアピールができます。

【今後の計画】

- 調査船駿河丸により、フグ稚魚が出現する時期や場所を明らかにします。
- 混入するフグ稚魚の種類を明らかにするとともにその毒性を検査します

(作成 平成 28 年 4 月)